

CON・CERT walking from +1art to +2

藤本由紀夫・小寺 未知留・佐藤 雄飛・林 葵衣・山本雄教・カワラギ・野口ちとせ

2021 年 11 月 03 日 (水) - 11 月 21 日 (日)

OPEN pm 12-7 水・木・金・土曜 (日・月・火曜休廊)

*11/21(日)は予約制で開廊

コン・サートと題した展覧会を開催します。

現在行われている展覧会は、作家の作品を展示して観客はそれを見るというスタイルが一般的です。そこでは、制作する側（作家）と見る側（観客）ははっきり区別されています。

本展では観客は単に見る側ではなく、作家が出した課題に応じて行動を起こすことにより、作家と共同して展覧会をつくります。例えていえば、作家の課題は楽譜で、観客はそれを実行する演奏者ということもできるでしょう。

演奏者はステージ、鑑賞者は観客席という、現在の私たちがイメージするコンサートが始まったのは比較的最近のことです。歴史を繙くと、初期のコンサートは複数の人が集まって歌ったり演奏したりして楽しむものでした。

コン・サート展は「共に楽しむ」初期のコンサートに倣い、作家と観客が共働してつくる展覧会です。

+1art

CON・CERT展 リード文

「コンサート concert」。イタリア語の「コンチェルト concerto」に由来する語である。さらにはラテン語にまで遡ることができ、「争い・議論 concertatiō」や「絆・協力 consortiō」といった語と同根だと考えられている。英語でも「演奏会」だけでなく、「一致」「協力」「調和」といった意味を有し、動詞の場合には「合意のもとに調整する・協定する」といった意味になる。英和辞書の中には、「共に con」「努力する cert」と解説しているものもある。

音楽を演奏するというのは常に専門家だけに許された行為だったのだろうか。そうではない。商業的な演奏会が登場以前から、音楽愛好家たちは私的に音楽を楽しんでいた。「コンサート」という言葉が意味するとおり、複数の人が集まり、共に自らの手で音楽を奏でていたのである。

+1artは舞台袖になる。反対側の舞台袖は+2だ。二つの舞台袖の間にある街が、この「コン・サート」のステージである。

コンサートとは、観客や出演者といった役割に関わらず、複数の人々が集まって（ときに争いながらも）共に何かをすることなのである。

クロージングイベント**<コンサートからコン・サートへ>**

参加作家によるトーク & ヒアリング

11/21 (日)

予約制 ①12:00-14:00 10名
②15:00-17:00 10名

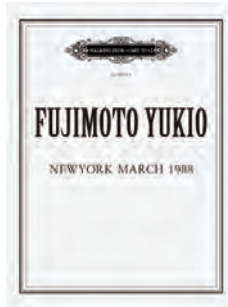
予約・お問い合わせ +1art (gal@plus1art.jp)

*諸事情により予定を変更する場合があります。
詳細はwebにてご確認ください。



藤本
由紀夫

FUJIMOTO Yukio



1950年名古屋生まれ。大阪芸術大学音楽学科卒。

80年代半ばより日常のなかの「音」に着目した装置、サウンド・オブジェを制作。インスタレーションやパフォーマンス、ワークショップを通じて、空間における「音」の体験から新たな認識へと開かれていくような活動を展開している。主なグループ展に2001年「第49回ヴェニス・ビエンナーレ」、2007年「第52回ヴェニス・ビエンナーレ」(ヴェニス)など。

小寺
未知留

KODERA Michiru

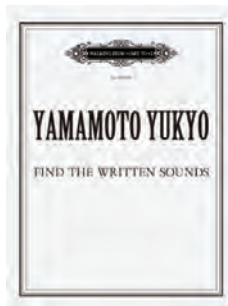


立命館大学文学部准教授。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。博士(音楽学)。

戦後米国の音楽理論家レナード・マイヤー(1918~2007)およびアーティストのマックス・ニューハウス(1939~2009)に関する研究を進めている。主な論文に、「マックス・ニューハウスは何を『音楽』と呼んだのか」(2021、『美学』第72巻1号)、「レナード・マイヤーとニュー・ミュージコロジーの関係についての一考察」(2018、『音楽学』第63巻2号)。また、主な音楽作品に、ピアノのための《透明でもそこにある》(2017)、ソプラノとフルートとピアノのための《Gravity》(2012)、ピアノのための《両極端な風景》(2012)。

山本
雄教

YAMAMOTO Yukyo



美術作家。1988年京都府生まれ。2010年成安造形大学造形美術科日本画クラス卒業。

2013年京都造形芸術大学大学院修士課程ペインティング領域修了。

「一枚の葉っぱが手に入ったら、宇宙全体が手に入るでしょう」という安田靫彦の言葉のように、些細な対象が日常的な価値観を超え世界の一端に繋がっていくような感覚を求めて作品を制作。

最近の主な個展

2021 「Mosaic life」 高島屋大阪展6階ギャラリーNEXT | 大阪、その他3会場に巡回

「豊穡の空洞」 河岸ホテル | 京都

2019 「faint noise」 +1art | 大阪

2018 「青いテントと五つの輪」 YOD gallery | 大阪

最近の主なグループ展など

2021 「第8回東山魁夷記念 日経日本画大賞展」 上野の森美術館 | 東京

2020 「美の予感2020 —平面・特異点のカナリアー—」 高島屋日本橋店6階美術画廊、その他5会場に巡回

2019 「ART TAIPEI 2019」 Taipei World Trade Center | 台湾

林
葵
衣

HAYASHI Aoi



1988年京都出身、京都在住。京都造形芸術大学卒、同大学院修了。

アーティスト。身体と意識のズレの可視化をコンセプトに反復によるズレ、色彩の残像、音声の保存をテーマにした作品を制作。自分のものではないようにもどかしく思う見えない身体のふるまいと対話し目に見える形を与え提示する。

各地で個展、グループ展へ出品する他、舞台美術や本のジャケットワークも手掛ける。

主な個展

2020 「息差しの型取り」+2 | 大阪
「一振りの音」+2 | 大阪
「遊動躰」Gallery PARC | 京都
2019 「対話の時間」黄金4422bld | 愛知
「詩の復唱」KUNST ARZT | 京都

主なグループ展

2021 「phono/graph」京都岡崎 蔦屋書店
「文字模似言葉」ボーダレス・アートミュージアムNO-MA | 滋賀
2020年度第4期常設展「画家の痕跡」高松市美術館 | 香川
2020 「見えない世界 | invisible world」+1art | 大阪
2019 「京都府新鋭選抜展」京都文化博物館
「第六回アラタパンダン展」クリエイティブセンター大阪 名村造船所跡地 | 大阪
「小さいわたしたち Who are we?」+1art | 大阪
2018 「VOCA展」上野の森美術館 | 東京

佐
藤
雄
飛

SATO Yuhi



アーティスト、デザイナー。1994年神戸市生まれ、京都市立芸術大学 美術科 卒業、同大学院 美術研究科 修了
シルクスクリーン、写真、3DCGなどを用いて作品を制作。

主な個展

2021 「隣人の生活」+1art | 大阪
2020 「p/s/b/p/」+2 | 大阪

主なグループ展

2020 「見えない世界 | invisible world」+1art | 大阪
「VOR KUNST」Van Der Plas Gallery | ニューヨーク
2019 「複眼と対象のノード」gallery @KCUA | 京都

カ
ワ
ラ
ギ

KAWARAGI



+1art、+2 ディレクター。

見たことがない、聞いたことがないものに興味があります。コスバ悪い美術や音楽も好きです。宇宙人がいるなら、どんな美術や音楽を彼らはつくっているのだろう?と、よく思います。

野
口
ち
と
せ

NOGUCHI Chitose



+1art、+2 ディレクター。

僻地の廃校に等身大の鉛筆を100本立てる《手に余る鉛筆計画》を進行中(2015-)。音を素材にした作品に《Requiem》《You say We》《KATA KOTO》などの「音・空・観」シリーズ(2003-2013)がある。